

コロナ「武漢研究所説」強調する米政府の新サイト立ち上げで、窮地に立たされる「あの人物」

2025/04/22 ニュースウイーク



https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2025/04/547750_4.php

コロナ禍で職務を果たしただけなのに、保守派からは「人道に対する罪、刑務所に入るべき」とまで指弾される米保健高官の悲哀

新型コロナウイルスが猛威を振るっていた頃、アメリカの対策を率いた元米国立アレルギー・感染症研究所（NIAID）所長のアンソニー・ファウチが今、窮地に立たされている。ホワイトハウスは4月18日、新型コロナウイルスのウェブサイトを立て上げたが、その中で現在ジョージタウン大学医学部教授のファウチを「自説を展開した」と非難。現在、SNS上ではファウチに対する賛否両論が巻き起こっている。

新型コロナのワクチンや治療法に関する情報を集めた同ウェブサイトでは、ウイルスの発生源につき、中国からの研究所流出説を支持する内容が掲載されている。ファウチを批判しているのは、ウイルスが自然起源だとする「好ましい自説」を彼が否定していないからだとする。

本誌はジョージタウン大学の広報チームにメールでコメントを求めている。

ファウチはトランプ政権1期目の初期に新型コロナの流行が始まった際、ドナルド・トランプ大統領と共に新型コロナへの対応に従事した。しかし、トランプが公衆衛生指針を軽視し始めたため、トランプに批判的な立場を取るようになった。

ファウチは命に危険が及ぶような脅迫を受け身辺警護が付いていたが、今年1月、トランプは連邦政府によるファウチの身辺警護を打ち切っている。

しかし、新しいウェブサイトでは、ファウチが「ウイルスは自然起源だという自説」をより押ししようとしたと述べ、最初のパンデミックが発生した中国の武漢市には、バイオセ

ーフティレベルが不十分な状態でウイルス研究を行っていた研究所が存在していたとも記載している。

加えて、ファウチを含む公衆衛生当局が「矛盾したメッセージ、拙速な対応、透明性の欠如」によって米国民を誤導し、他の治療法を「極悪非道なもの」と見なし、研究所流出説を軽視したとも非難している。

18日にウェブサイトが更新された後、共和党のマージョリー・テイラー・グリーン下院議員（ジョージア州）は「集団免疫こそがロックダウンに代わるべき対策だった。ワクチンを作るためにウイルスを作るのは危険で致命的であり、それは科学ではない。ファウチと関係者は人道に対する罪で起訴されるべきだ」と主張。

米食品医薬品局（FDA）に対し、すべての新型コロナワクチンの承認を取り消し、小児向けの予防接種スケジュールから即刻除外するよう求めた。なお、グリーンは、6月の公聴会でもファウチに対し同様の主張をしている。

また、ファウチを以前から批判していた作家のジェフ・カールソンも X（旧ツイッター）に、ファウチとその取り巻きがパンデミックを隠蔽したと述べ、「彼は刑務所に入るべきだ」と投稿した。

一方、ファウチを擁護する声も多く見られた。感染症専門医のニール・ストーンは「ファウチはパンデミックを計画したのではなく、パンデミックに『備える』計画をしたのだ。それが彼の仕事だった」と述べた。

また、Xユーザーのジェームズ・テイトは、「ホワイトハウスはトランプのために、ファウチをスケープゴートにしている」と投稿した。

この新しいウェブサイトは、新型コロナのパンデミックがトランプとその支持者にとって、依然として政治的にセンシティブな問題であることの証左となっている。

米疾病予防管理センター（CDC）によると、過去1カ月間において、アメリカでは週平均325人が新型コロナで死亡している。SNSユーザーの間では、今回立ち上げられたウェブサイトが、国民に必要な予防情報を提供しないのではないかという懸念が広がっている。

ブレンダン・コール

